

工事費内訳書の取扱いについて

工事費内訳書について、次のとおり取り扱いますので、十分に御理解のうえ、入札に参加してください。

記

1 提出時期

入札執行に参加する者は、入札時に提出すること。郵便入札の場合は入札期間内に、発注者が指定した場所へ持参又は郵送（書留郵便等の配達記録が残るもので期限の最終日の午後5時までに到着したものに限る。）により、入札書と併せて提出すること。なお、入札時に工事費内訳書を提出できないときは、入札書が無効として、開札しない。

2 工事費内訳書の様式、記載内容

入札執行に際して、以下の点を確認することとしているので、当該設計図書の設計内訳書に対応したもので、記載内容は少なくとも工種までを記載した工事費内訳書を提出すること。

なお、工種ごとの金額が記載されていないなど提出された工事費内訳書に別表に該当する不備があるときは、工事費内訳書が提出されていないものとみなし、入札書が無効として、開札しないことがあるので、十分に留意すること。

- (1) 業者名、工事名の記載確認
- (2) 工事区分・工種（建築一式工事の場合は種目・科目）ごとの金額の記載確認
- (3) 入札金額が工事費内訳書の工事価格（税抜工事費計）と一致していることの確認

別表

1 工事費内訳書が未提出であると認められる場合（未提出であると同視できる場合を含む。）	（1）工事費内訳書の全部又は一部が提出されていない場合
	（2）工事費内訳書とは無関係な書類である場合
	（3）他の工事の工事費内訳書である場合
	（4）白紙である場合（工事費内訳書に全く記載がない場合を含む。）
	（5）工事費内訳書に押印がない場合
	（6）工事費内訳書が特定できない場合 （複数の工事費内訳書が提出されている、他の工事の工事費内訳書が含まれる場合等）
2 入札金額が工事費内訳書の工事価格（税抜工事費計）と一致しない場合	
3 その他の不備により適正な見積りがなされていないと判断される場合	